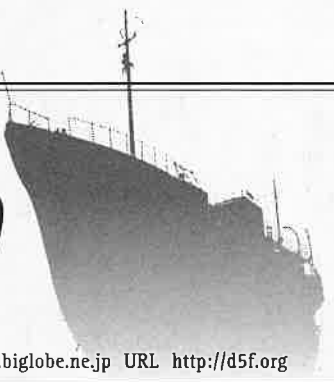


2005.02.01
No.316

福竜丸だより



発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内
Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org

写真上右・リニューアルオープン記念のつどい、上左・岡本太郎「明日の神話」の第五福竜丸展、下右・現代アート展に参加のアーティスト、下左・久保山さんへの手紙展



第五福竜丸からさまざまな発信

50周年記念特別展終る

ビキニ水爆・第五福竜丸被災五〇周年記念プロジェクト

は、二〇〇四年二月一四日に常設展示のリニューアルと福竜丸乗に関する現物資料を公開する特別展でスタートしました。また、初の図録『写真でたどる第五福竜丸』（A4版一〇四ページ・カラー）を刊行しました。

以後、「岡本太郎『明日の神話』の第五福竜丸展」「島田興生写真展―曝された楽園・いのち・子どもの未来」

「現代アート展コラボシング・ヒストリーズー時・空間・記憶」「手紙―託された心 久保山愛吉さんと家族に寄せられた手紙展」「豊崎博光写真展 ビキニ水爆五〇年・地球被曝六〇年―核が作り出した光景」の特別展を二〇〇五年一月末まで開催しました。

ビキニ五〇年は、新聞やテレビでも取り上げられ、特集や連載が生まれ、また展示館での企画展などもそのつど紹

介されました。

「この展示会がなければ一生第五福竜丸展示館に足を運ぶことはなかったでしょう」

「ずっと来ようとおもっていましたがリタイアしたのでやっと来ることができました」などの寄せられた感想に示されるように、五〇周年の機会に初めて来館された方も多数にのびりました。

また、巡回展示用のパネルも製作し、高知市、立命館大学国際平和ミュージアムなどで特別展が開催され、今年度は広島と長崎両市で開かれます。

五〇周年記念プロジェクトにあたり各界・各方面からご賛同とご寄附、お力添えをいただき、とどこおりなく諸行事を遂行することができました。厚く感謝する次第です。

引きつづき来年六月の展示館開館三〇周年にむけて、記念事業の企画立案の作業をすすめます。

行って見てきました たマーシャル

大 幡 嘉 子

マーシャルは「太平洋の真珠の首飾り」と呼ばれる。美しいその島をアメリカは核実験場にした。島は吹き飛び、第五福竜丸を襲い、地球規模の汚染がおきた。建設運動中の「平和ミュージアム」も見たい。第五福竜丸展示館のボランティアとして三年余。来館者へガイドなどしている中で、マーシャルへ行ってみたい思いがいっぱいになっていった。

そんな二〇〇四年夏、展示館内に大阪のボランティアセンター(AVC)のマーシャルスタディツアーの募集のお知らせがあった——つい応募してしまった。私は障害者だし断られるかと思っていたが参加OK。八月は展示館も忙

しい時で申し訳なかったが行ってしまった。

首都マジユロの空港入国窓口で、黒い顔の怖げな係官に「ヤクエ(こんにはは)」と言ってみた。「お、いいですね(日本語で!)と返され「ヤクエ」と笑ってもらった。

水没!? ホテルへの道で

空港から車でホテルへ向かう。道の両側に海が見える。右は外洋で波が荒い。左は礁湖で鏡の様。白砂、椰子の木、高まる期待。

「今渡っている橋が海拔二mで、島で一番高いところなの。地球温暖化が進めばマーシャルは水没してしまう」こ



ジャルートの子ら

んなただならぬ恐ろしい説明を、どこかのどかに聞いている、困惑と不思議。この「困惑と不思議」は旅行中続いた。

今回訪れたマジユロ及びジャルートの環礁はマーシャル諸島共和国の南にあり、北部に位置するビキニの核被害の影響は一見見られなかった。

マジユロの大きなスーパーは「こりやアメリカだ(アメリカへ行ったことないけど)」と思った。通貨はUSDドル。物はみんなアメリカの。

ラグーンの底には

礁湖(ラグーン)で泳いだ。本当に気持ち良かった。珊瑚礁に魚が群れている。でも古タイヤや壊れた電気製品も沈んでいた。自然が循環する静かな生活の中に、どっと流れ込んだアメリカの物を処分する方法をマーシャルの人は知らないし、できないのだ。

ジャルト環礁へ
日本軍の戦跡たずね

ジャルトへは国内線のプロペラ機で行く。降りた所は広い野原で簡素な空港施設があり、出迎えの人たちが花冠

女性たちと交流する大幡さん



やレイをかけてくれ、椰子の実を割りふるまってくれた。島の人たちだ。

ここでのショックは日本軍の戦跡だった。特にイミエジ島は日本軍の要塞で、海岸はコンクリートで固められ、砲台、錆びた高射砲、崩れた壕や兵舎等を、波が侵蝕し南方の植物が繁る。不気味で不思議な光景だ。島の人の犠牲もあったという。別の島では食物の不足から軍による虐殺さえあったという。それなのに島の人は、私達を歓迎して唄ってくれ、ローカルな食事をふるまってくれた。「私おはあさん、ヨシコ。私アキコ」と手を握ってくれた人もい

た。アメリカの罪は地球規模だ。未来に続く苦しみを人種差別的にもたらした。しかし日本のやったことも認識すべきだと思つた。

ヒバクした女性たち

マジユロにあるERUB(女性の被曝者連帯グループ)の本部で、第五福竜丸展示館にある写真で知るロンゲラップの女性たちにお会いした。高齢、首に白く手術跡がある。

「私たちは被曝の体験を、もう何度も証言してきた。日本にも行った。でもあなた方は何も認識がない。被曝者の状況は何一つ良くならない」。

「平和ミュージアムの建築資材は全部買った。土地も決まった。でも政治の圧力あってその土地が使えないのです」。それなのに食事をふるまってくださり、おみやげをくれ音楽に合わせて踊る。私はこの方たちの悔しさと、開き直った明るさを見た。お会いできてよかったと思う。次には北部に行こう、必ず。(第五福竜丸ボランティアの会)

*写真提供アジア・ボランティアセンター

「第五福竜丸を最も愛したジャーナリスト」を読んで

白井千尋著、白井雅子編

山村茂雄

一九六三年三月二日の新聞「赤旗」は、「死の灰」をかぶった第五福竜丸が沈められそう——夢の島のゴミ捨場に」の記事を載せた。

第五福竜丸が廃船処分をうけて東京・夢の島に放置されたのは一九六七年夏頃。当時、夢の島は東京のゴミ廃棄場として、ゴミ公害、ハエ騒

動を引き起こしていた。記事を書いた白井千尋記者は、この東京のゴミ問題取材のなかで「第五福竜丸が夢の島のゴミの海に捨てられている」とを耳打ちで知らされる。

本書が収録する遺稿には、この間のことがこう書かれている。「多数の東京都清掃局の労働者や港湾労働者がゴミ

埃にまみれて働いていた。——労働者たちは驚くほど詳しく第五福竜丸について知っていた。ここに捨てられているこの船の不幸を、自分や家族のことも語るようにおもしろいことをこめて私に話してくれた」、白井さんの第五福竜丸取材が始まる。

*

三月二日の記事。「日本と世界の原水爆禁止運動にとって絶対に忘れることのできないこの船を、ゴミ捨場に沈めてしまうなんてひどすぎる。広島原爆ドームのようになんとか保存する方法はないか」との声が関係者の間からもおこっています。第五福竜丸の状況と保存への動きを伝えた最初の記事であった。同記事は、第五福竜丸の漁労長見崎吉男さん、焼津原水協の利波多美さんの談話を載せるなど準備された記事となっている。

六八年のビキニデー中央集会は、焼津市で開かれた。集会的なかでは東京江東区の代表から第五福竜丸保存の提起も行われていた。当時、私は日本原水協事務局員で、白井

さんの取材にも接していた。

思い起こせば、二日の記事が伝える「関係者」に——運動関係者を含めて——取材していた白井さんの姿が浮かぶ。

第五福竜丸廃船・放置の問題は、各紙でも大きく取り上げられ、反響をよんだ投書が掲載されるなど保存の世論が高まる。白井さんの取材・報道も保存運動の盛り上がりの後押しするように続く。

*

編者の白井雅子さんの「あとがきにかえて」には、千尋さんの経歴とともに病歴も記されている。体の異変が気にかかりながら第五福竜丸展示

館へ取材にかけた先で倒れたことも記されており、胸に迫る。

いちばん福竜丸にかよったジャーナリスト白井さんは、一年七ヵ月の闘病後、九三年七月死去。享年六五歳。

植物や草花にも造詣の深かった白井さんが、展示館前庭の久保山愛吉記念碑の脇に植えたバラ「ピース」は、「愛吉、すずのバラ」に寄り添うように、季節ごとに花をつける。

(第五福竜丸平和協会理事)
* 光陽出版社発行、A5判
一六〇頁、価二三〇〇円

3・1ビキニ記念のつどい すずさんの願いを未来へ

「核兵器をなくして真の平和を」を訴え続けた第五福竜丸の無線長久保山愛吉さんの妻すずさんに心を寄り添わせ、伝えるお二人の方を静岡からお招きしてお話をお聞きます。

日時 3月5日(土) 14時より16時

会場 夢の島マリーナ 2F 会議室

(* 13時より展示館の見学会)

おはなし 飯塚利弘(『死の灰を越えて——久保山すずさんの道』著者)
川口智子(漫画「バラが散った日」原作者)

参加費 500円

本書の写真ページより



上 東京湾に廃棄されていた第五福竜丸 下 その事実を「社会に届けたはじめての新聞記事『赤旗』1963年2月2日」「この記事を書いたのは白井千尋記者である。最も第五福竜丸を愛し、最も船の世話にかよったジャーナリスト」と紹介している第五福竜丸展示館のパネル(2003年)

豊崎博光写真展に 寄せられた感想より

原爆・戦争を知らない世代です。しかしこの悲惨な出来事は日本に生まれた以上熟知し後世に伝えていかなければならないと思います。たくさんの方のことを学ばせていただきました。(男性)

被爆国に住む私たちにとって、世界中にヒバクシャが存在することにもっと関心を寄せ連帯することが大切であると思います。私の住む鹿児島県でもビキニ核実験の被害がありました。今は忘れられてしまおうです。伝える努力をしたいと思います。(40代男性)

この国を背負っていく子どもたちをちゃんとした大人に育てることは大人の責任です。命がけで写真を撮り続けていらっしゃる豊崎さんのお仕事に敬意を表してやみません。(女性)

いま私たちの住む日本は平和な国だけど、多くの犠牲のうえで平和な日本があるんだと知りました。核のない平和な国になっていなければ良いなあと思いました。(女性)

豊崎さんの写真から、核の被害が心にも体にも文化にも及んでいることに気づかされ、驚きました。マイノリティへのやさしいまなざしを感じます。(30代女性)

どうして人は科学の力や己の知を間違ったことへ使うことへ走ってしまうのか……と痛感させられます。しかし人は反省もできるはずで、このような悲劇が繰り返されている現実から目をそらさずに、今自分で

きることを考えなければと思います。(小学生の父)

*

成人の日の1月10日、豊崎さんを囲んでの学習会が催されました。東京品川区や鹿児島で「平和のための戦争展」にとりくむ若者、マーシャル諸島の核被害を研究している大学院生など20名が参加しました。豊崎さんは世界の核被害の実情やヒバクシャが生み出される核サイクルのシステム、取材にまつわるエピソードなど約2時間にわたり講演。質問も活発にだされ、「核が作り出した光景」にひそむ事実、驚きの声も聞かれました。その後会場を移して懇親会がもたれ、豊崎さんの取材や体験への質問が続き、もっと伝えなくてはとの感想がだされていました。

ボランティアの会 連続学習会 「福竜丸講座」始まる

見学者へのフロアガイドや資料整理を中心に活動しているボランティアの会では、第五福竜丸についての知識をより深めるための学習会を始めました。これまでも専門家を招いて放射能や、船の補修・文化財の保護の勉強会、特別展に関して開いてきた学習会を発展させたものです。

第一回目のテーマは「第五福竜丸保存運動」の歴史。廃船となった船の保存に関わり今もボランティアのメンバーとして活躍している青木佳子さんから、当時の様子を詳しく聞きました。保存のとりくみが突然起きたものではなく、当時、小学教諭として命の大切さを教える教育理念と船の保存が繋がっていると思い

活動したことなどが紹介されました。

学習会は、当面、船の保存に草の根からかかわられた方々のお話をうかがい「記録しよう」をコンセプトにつき1回開く予定です。都港湾管理で品川の水産大学に係留され廃船になった第五福竜丸(はやぶさ丸)のことを組合の分会ニュースで紹介した方、夢の島の海面で沈みかかった船の補修をされた大工さん、江東区内の労働者のとりくみなど、当時かかわられた方々の体験をお聞かせします。

2005・お花見平和の つどい

第五福竜丸から平和を発信する連絡会による5回目となる「お花見平和のつどい」は、4月2日(土)午前11時より15時まで、第五福竜丸展示館前庭の八重紅大島桜をめでながら、ひろばと展示館でおこなわれます。

今年は、連絡会に参加する各団体の平和のとりくみ報告、小グループで被爆・戦争体験を聞く会、折鶴コーナー、平和メッセージコーナー、憲法コーナーなど戦後・被爆60年にちなんだ企画が検討されています。



訂正

第五福竜丸だより1月号の4面記事の中の三好和夫さんの逝去された月日は11月9日です。お詫びして訂正いたします。